



年 組 名前

# 道新 ワークシート

室蘭・登別・白老 1～3月期

## 業況最低マイナス49

室蘭信用金庫の業況判断指数(DI)を表した天気図

	天気図の見方		
	前回調査 10～12月期 実績	今回調査 1～3月期 実績	今後予想 4～6月期 予想
全業種	-32	-49	-39
A	-28	-36	-34
B	-21	-35	-48
C	-42	-75	-40
D	-62	-59	-41
サービス業	-18	-51	-32

天気図の見方	DI
快晴	+25～
晴	+10～
薄日	+3～
薄曇り	
曇り	～-3
雨	～-10
大雨	～-25

これまでの全業種平均DIの最低値は、新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言が出されていた昨年4～6月期のマイナス46。今回はコロナ対策に加え、ウクライナ侵攻による先行きの見えない原燃料価格の高騰が、幅広い業種に影を落とし、さらに3割下落した。天気図で全業種が「大雨」となるのは、昨年4～6月期以来。業種別では、サービス業が同33ポイント減のマイナス51。登別市の企業は調査に対し「ウクライナ情勢により、温泉ホテルの運営に不可欠な重油の仕入れに影響が出ており、大きな打撃」と答えた。卸売業も前回比33ポイント減のマイナス75。調査では「ロシアからの水産物の輸入が減少する見込み」とする室蘭市の企業のコメントがあった。

### 室蘭信金調査 コロナ、燃料高騰影響

室蘭信用金庫は室蘭市、登別市、白老町の1～3月期の景気動向調査(スワンレポート)をまとめた。企業の景況感を示す業況判断指数(DI)は、全業種平均で前回(昨年10～12月期)比17ポイント減のマイナス49となり、1998年の調査開始以来、最低となった。1～3月の新型コロナウイルス対策のまん延防止等重点措置の道内適用や、ロシアによるウクライナ侵攻が大きく影響したとみられる。(久保耕平)

DIは景気の傾向を示す指標で、業況が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値。

次期(4～6月期)予想は今回から10ポイント改善だったが、マイナス39と回復の兆しは見えない。業種別では全ての業種が天気図で「大雨」のままとなる見込みとなっている。室蘭信金は「エネルギー価格の高騰や、新型コロナウイルスへの根強い不安感により、今後についても依然として厳しい経営状況を見込んでいる状況がうかがえる」としている。

前回、前々回ともに業種別で唯一、天気図が「雨」と最悪の状況を免れた建設業も、今回は前回比14ポイント減のマイナス35で「大雨」。室蘭信金は「原料価格高騰だけでなく、冬場で公共工事がなかったことも影響しているのでは」とみる。

2022年6月9日(木) 朝刊 室蘭・胆振版 15ページ (記事は再編集しています)

①ぼう線「同33ポイント減」とありますが、この説明として適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「同」はすでに記事に出ている同じ数字を表すための言葉で、ここでは、「前回の調査と同じ33ポイント減った」という意味。
- イ 「同」はすでに記事に出ている同じ数字を表すための言葉で、ここでは、「全業種と同じ33ポイント減った」という意味。
- ウ 「同」はすでに記事に出ている言葉を短く表すための言葉で、ここでは、「前回の調査と比べて33ポイント減った」という意味。
- エ 「同」はすでに記事に出ている言葉を短く表すための言葉で、ここでは、「全業種と比べて33ポイント減った」という意味。

②建設業は 、、、 のどこに入りますか。

③この記事は、何を何にたとえて説明していますか。